

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 1:9~11 「私たちの誇りとするもの」

[9] 「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい」

貧しい境遇とはこの場合特に社会的階級の低い状態のことを言う。その代表的なものは奴隷であった。彼らは常に主人の命令に従わなければならない、自分勝手に行動することは許されなかった。彼らの仕事は水汲み、薪割り、掃除、洗濯などの下働きや肉体労働であった。しかしヤコブはそのような貧しい境遇にある者であっても自分の高い身分を誇りとしなさいと勧めることができた。キリストにある者は、この世の制度には全く束縛されない自分の高い身分を誇ることができるのである。このことは神が与えてくださった身分を正しく理解することから始まる。イエス・キリストを救い主と信じた者は神の国の国籍が与えられている。→ピリピ 3:20

これは何ものにも代えることのできない高い身分である。もはやユダヤ人もギリシヤ人も奴隷も自由人もない。キリストにあって同じ神の国の民なのである。神の国の民は神の怒りとさばきに会い、滅びに行く者ではない。この特権は金持ちや王侯貴族が世界中の金銀を積んでも手に入れることはできない。ゆえにこのすばらしい特権を与えられている者は大いにその身分を誇ることができるのである。さらに彼はキリスト者としてもう一つの特権を持っている。それは彼が知恵を求めるならば与えられ、またみこころにかなう祈りをするならば豊かに答えられるということである。→ヤコブ 1:5~6, マタイ 7:7~11, I ヨハネ 5:14~15 そして何よりも、信じる者には御霊が内住してくださり、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制といった御霊の実を結ぶことができる。→ I コリント 6:19, ガラテヤ 5:22~23

それゆえヤコブはキリスト者としての自分の高い身分を誇りとしなさいと勧めるのである。

誇りとしなさいということは、自慢するというのではなく、光栄としなさいという意味。

[10-11] 「富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えていくのです」

クリスチャンの中にも少ないが富める者がいた。アリマタヤのヨセフやニコデモ、紫布の商人ルデヤ、ヘロデヤカイザルの宮廷で仕えていた人々…(マタイ 27:57, ヨハネ 19:39, 使徒 16:14, 13:1,

ルカ 8:3)。このような人々はキリストにあって自分が低くされることに誇りを持つように勧められている。富める者はしばしばその富に頼り、安全や満足、危険からの回避などを得ようとする。ところが彼らが信仰を持つ者となったとき、それらはむなしなものであったということに気がつくのである。→ルカ 12:16~21 彼らは偽りの優越感、偽りの安全さから目をさまされ、神なくしては全くむな

しい存在であるという低さにまで下らせられるのである。

富む者もその財産もそれは一時的なものにしかすぎず、美しく咲き誇る花がやがて消え失せる様に似ている。それゆえ、富める者はその富のむなしさ、不安定さというものに目を開かされ、低い者にされたことと、また失うことのない永遠の富を与えてくださったキリストに信頼する者とされたことを誇りとし感謝することができるのである。

十字架にかかれたイエス・キリストは貧しい者も富む者もどんな人も救うことができる。このお方のうちにこそ一切の富、希望、永遠のいのちがある。私たちももう一度このイエス・キリストを仰ぎ、謙遜な者となり、彼によって与えられたすばらしい特権を主に感謝し、誇る者になりたい。